

事案名	舞鶴市の事案（京都府26-1）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume [1] ・ 『相模海軍工廠』 1984年 [2] ・ 「毒瓦斯及其ノ充填兵器処理ニ関スル件」昭和20年9月 [3] ・ Reports on scientific Intelligence Survey in Japan. September & October 1945. Vol. IV Chemical Warfare 1-NOV-45 [4] ・ 「日本海軍ニ於ケル化兵戦関係概況(連合軍ニ対スル説明)」(日付なし) [5] ・ 昭和47年通信調査 [6] ・ 証言 [7]
資料内容概要	<p>京都府舞鶴市には舞鶴海軍軍需部があり、終戦時、毒ガスが保有されていた。また、第31海軍航空廠（舞鶴）で毒ガス弾が廃棄されたとの情報や、舞鶴沖に毒ガス弾等を廃棄したとの証言がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終戦時に舞鶴海軍軍需部には、くしゃみ性ガス放射筒1,200本、催涙ガス手投げ弾（小）5,050発、催涙ガス手投げ弾（大）6,200発が残存していた [1]。 ・ 1945年（昭和20年）9月9日に、舞鶴にはイペリット爆弾約5,000発が残存していた [2]。 ・ 1945年（昭和20年）9月9日現在で、舞鶴にはイペリット爆弾約5,000発が残存していた [3]。 ・ 終戦時に舞鶴には、イペリット爆弾約5,000発が残存していた [4]。 ・ 終戦時に京都府舞鶴には、60kg イペリット爆弾約5,000発が保有されていた [5]。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元大阪陸軍兵器補給廠祝園墳薬所員の証言には、「大阪陸軍兵器補給廠祝園墳薬所の『あか弾』・『みどり弾』（『きい弾』はなかった様子）数量トラック10台分前後を、日本海（舞鶴沖）に海没」と記載されている [6]。 ・ 終戦時に第31海軍航空廠（舞鶴）にあった60kg イペリット爆弾5,000発が米軍到着前に廃棄された [1]。 ・ 終戦当時、京都府舞鶴航空廠の上等整備兵の証言として、「昭和20年8月23日から25日の間の日に、京都府舞鶴港から船で30分程度沖合の日本海に、50kg爆弾を海洋投棄したが、毒ガスであるかどうかはわからない。」と記載されている [7]。